

4 . 市民意向調査等の実施

4 - 1 . 交通バリアフリーに関するアンケート調査

(1) 目的

高齢者、身体障害者等や市民に対して、「外出行動の状況、駅周辺についての移動困難状況と改善策、バス利用時の移動困難状況等」についてのご意見を伺うことを目的とする。

(2) 配布・回収状況

配布日：平成 17 年 10 月 11 日

回収締切日：平成 17 年 11 月 15 日

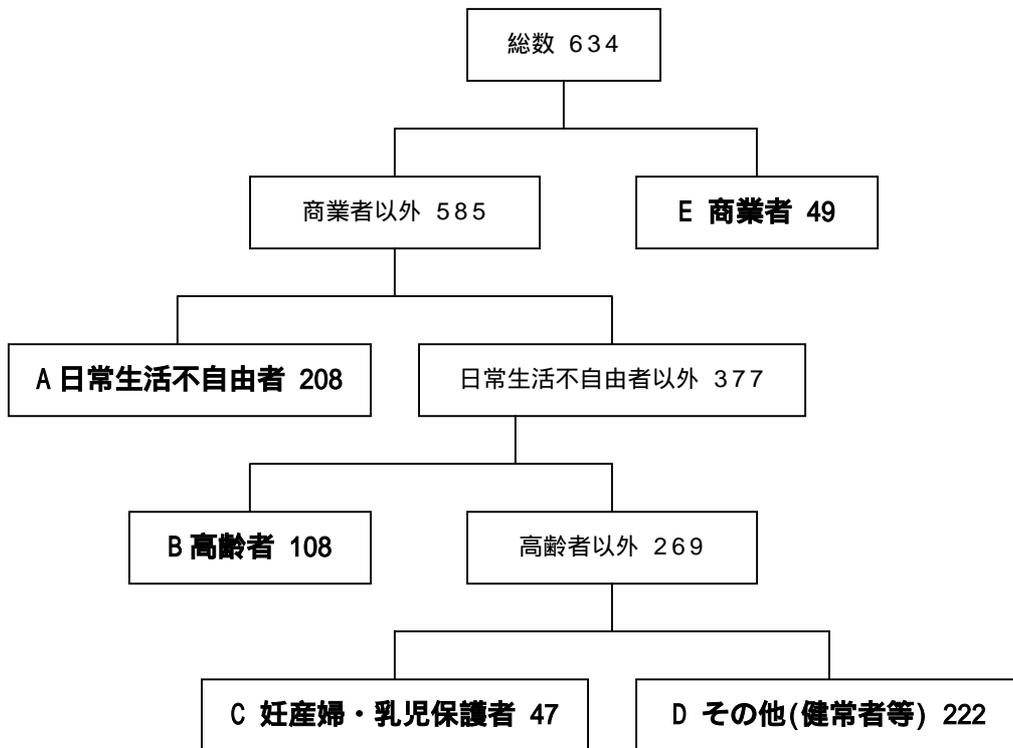
図表 4-1-1 配布・回収状況表

対象者	配布・回収方法	配布数 X	回収数 Y	回収率(Y/X)
高齢者 (65 才以上の方)	高齢者団体を通じて配布、返信用封筒等で郵送回収	206	111	53.9%
身体障害者等(15 才以上で障害者手帳をお持ちの方)	障害者団体を通じて配布、返信用封筒等で郵送回収	185	120	64.9%
一般市民 (15 才以上の市民)	15 才以上の無作為抽出で郵送配布、返信用封筒等で郵送回収	600	305	50.8%
妊産婦、乳児保護者	市健康づくり推進課のすくすく教室及び PL 病院産婦人科で配布、返信用封筒で郵送回収	75	49	65.3%
周辺の事業者等	商店会を通じて配布・返信用封筒で郵送回収	100	49	49.0%
合 計		1,166	634	54.4%

(3) 集計方法

今回の集計では、下記の分類を行い、各分類の集計結果の比較・分析を行いました。

- A 日常生活不自由者 : 日常生活動作について不自由を感じている方
- B 高齢者 : 65 才以上の方
- C 妊産婦・乳児保護者 : 妊産婦または乳児保護者の方
- D その他(健常者等) : ABC 以外の一般市民(健常者等)の方
- E 商業者 : 商業者の方



図表 4-1-2 アンケートの分類方法

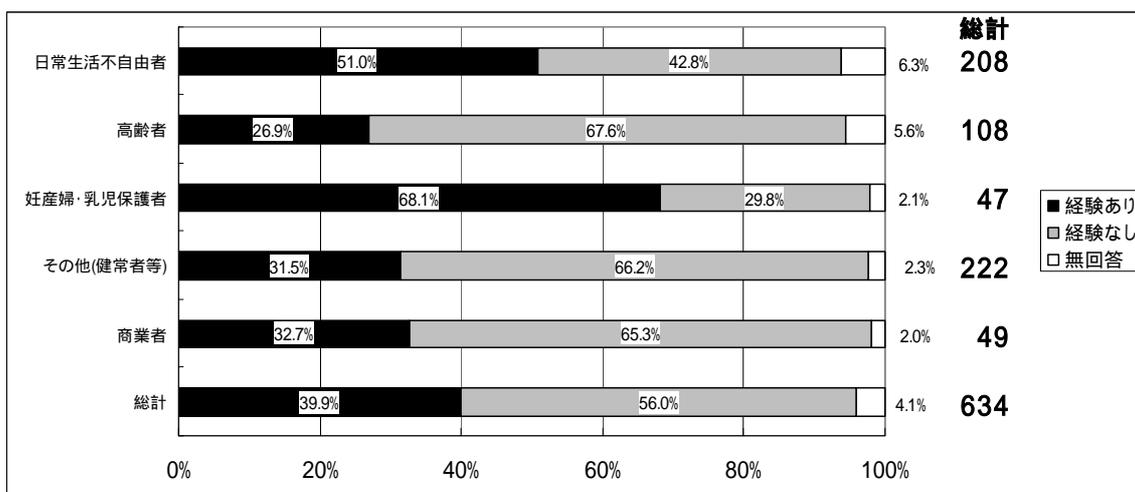
(4) 集計結果（概要）

アンケート集計結果の概要をまとめると以下のとおりです。

1) 健常者についても約 30%が移動困難を経験している

妊産婦・乳児保護者が最も移動困難を経験(68.1%)しており、次が日常生活不自由者(51.0%)です。その他（健常者）についても約 30%は、移動困難を経験しており、なかでも 34～54 才までの働き盛りの世代が約 40%と高い割合です。

以上より、交通バリアフリーは、日常生活不自由者のためだけでなく、健常者にとっても重要課題であるといえます。



図表 4-1-3 移動困難経験

2) 富田林駅は車椅子利用者の利用が比較的多い

下肢のみの不自由者で、富田林駅をよく利用する方の割合は 28.8%で、総計の 38.3%より約 1 割少なくなっています。一方、歩行補助杖や手動車椅子の利用者で、富田林駅をよく利用する方の割合は約 45%で、総計の 38.8%より多くなっています。また、補装具を全く使用しない方は、富田林駅の割合が 31.9%で、総計より少なくなっています。

以上のことから、富田林駅は、車椅子利用者の利用が以外と多いのですが、補装具を全く使用しない方も含めて、下肢のみの不自由者の利用が比較的少ないため、利用しにくい点があるのではないかと推察されます。

3) 鉄道駅周辺へは視覚・聴覚障害者及び健常者も歩きやすくなるような改善が必要

鉄道駅周辺への主な交通手段については、総計として徒歩での移動が最も多く 34.9%です。中でも視覚 44.4%、聴覚 39.0%、不自由ではない方 37.8%が高い割合で、駅周辺の道路には、視覚や聴覚障害者の方だけでなく、健常者も歩きやすくなるような改善が必要であるといえます。

4) 路線バスは、内部障害者や肢体不自由者の利用割合が比較的高い

路線バスで駅まで移動の割合は、総計が 14.0% に対して、不自由箇所別に多い順で、上肢のみ 37.5%、内部障害 24.2%、下肢のみ 18.5%、上下肢 16.7% となっており、肢体不自由者や内部障害の方の路線バスでの移動が比較的多くなっています。

自家用車で家族などに駅まで送迎してもらっている方の割合は、総計では 9.0% ですが、不自由箇所別に多い順で、言語 27.3%、上肢のみ 25.0%、聴覚 17.1%、上下肢 16.7% となっており、言語や肢体不自由の方が、送迎による移動の割合が高くなっています。

車椅子使用者は路線バスを利用せず自家用車(家族に送迎)の割合が比較的高い

路線バスで駅まで移動の割合は、総計が 14.0% に対して、補装具の使用種類別に多い順で、その他 50.0%、歩行補助杖 25.8%、義肢 20.0% となっており、自家用車で家族に送迎の割合は、総計が 9.0% に対して、多い順に手動車椅子 31.6%、補聴器 26.3% となっています。

以上を総括すると、路線バスは、内部障害者や肢体不自由者の利用割合が比較的高いのですが、車椅子使用者はほとんど利用しておらず、逆に車椅子使用者は、自家用車で家族などに送迎されている方が多くなっている状況が伺えます。

5) 富田林駅はトイレ・階段・時刻表・料金表への問題意識が高い

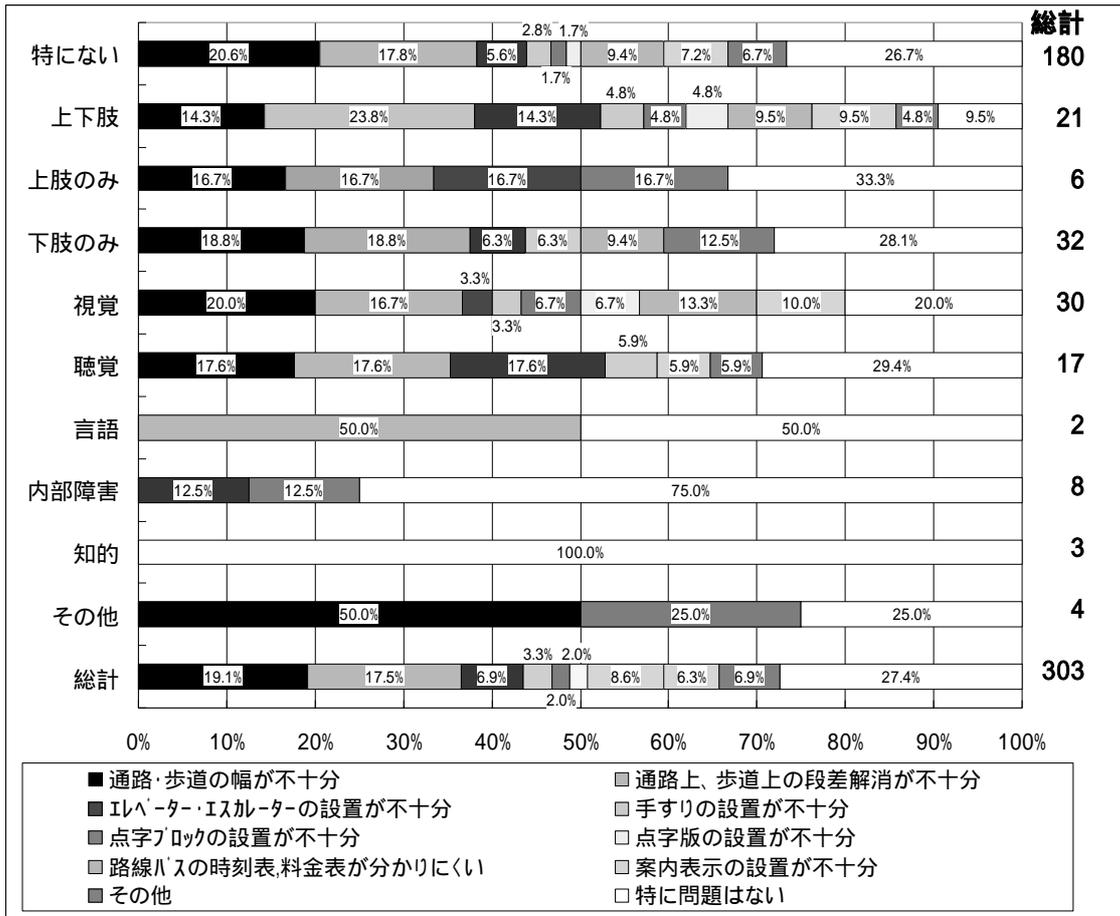
富田林駅は、1 位：トイレが使いにくい 16.7%、2 位：階段の上り下りがしにくい 13.9%、3 位：時刻表・料金表が分かりにくい 7.2%、の順に問題意識が高くなっています。

富田林西口駅は時刻表・料金表・改札口・トイレへの問題意識が高い

富田林西口駅は、同率 1 位で、時刻表・料金表が分かりにくい、改札口が狭い、トイレが使いにくい、への問題意識が高くなっています。

6) 富田林駅前広場は、通路・歩道の幅や段差・バス時刻表等への問題意識が高い

富田林駅をよく利用する方は、駅前広場について、通路・歩道の幅が不十分 19.1%、通路上・歩道上の段差解消が不十分 17.5%、路線バスの時刻表・料金表が分かりにくい 8.6%、エレベーター・エスカターの設置が不十分 6.9%の順に問題意識が高くなっています。



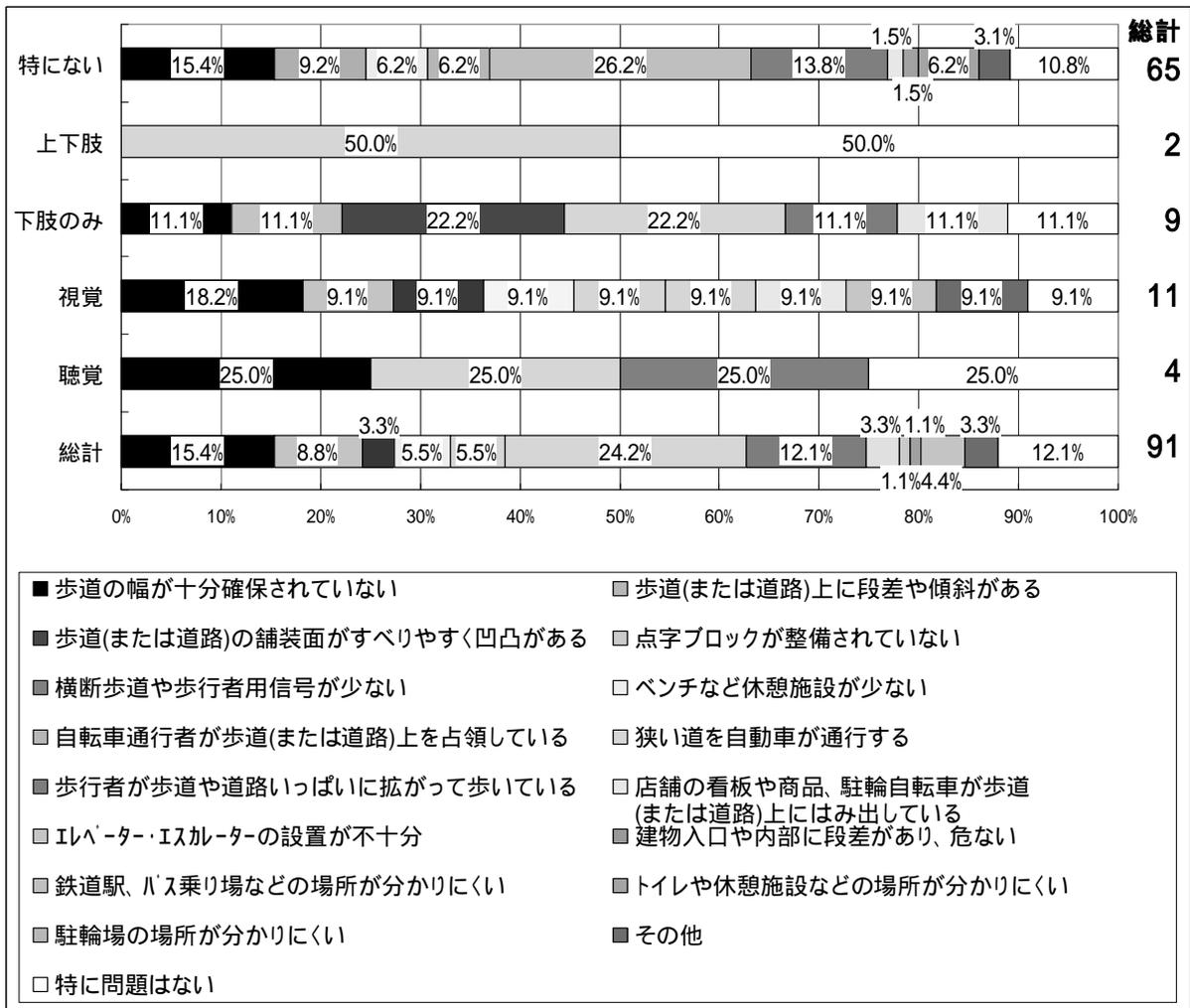
図表 4-1-4 富田林駅前広場の不自由箇所別改善点

不自由箇所別に見ると、通路・歩道の幅が不十分の割合が高いのは、特に不自由がない方 20.6%、視覚 20.0%、下肢のみ 18.8%となっており、通路上・歩道上の段差解消が不十分の割合が高いのは、上下肢 23.8%、下肢のみ 18.8%、特に不自由がない方 17.8%となっており、特に不自由がない方でも問題意識は高いということが伺えます。

7) 富田林駅周辺は、歩道の幅や段差・傾斜、休憩施設不足への問題意識が高い
 富田林駅周辺をよく利用する方は、歩道の幅が十分確保されていない 14.7%、歩道また道路上に段差や傾斜がある 11.8%、ベンチなど休憩施設が少ない 10.3%、狭い道を自動車が通行する 8.8%の順に問題意識が高くなっています。

富田林西口駅周辺は、狭い道を自動車通過、歩道、歩行者モラルへの問題意識が高い

富田林西口駅周辺をよく利用する方は、狭い道を自動車が通行する 24.2%、歩道の幅が十分確保されていない 15.4%、歩行者が歩道や道路いっぱいに拡がって歩いている 12.1%、歩道または道路上に段差や傾斜がある 8.8%の順に問題意識が高くなっています。



図表 4-1-5 富田林西口駅周辺の不自由箇所別改善点

- 8) 路線バスは、肢体不自由者の利用が多いが、車椅子使用者の利用はほとんどない
路線バスやレインボーバスの利用頻度について、利用頻度が比較的高い、「ほぼ毎日利用」と「週に2～3回程度利用」される方の割合が高いのは、肢体不自由者です。しかし、肢体不自由者の中でも車椅子使用者は、路線バス等をほとんど利用されていない状況であり、その理由としては、自家用車などを利用、必要ない、バス停が遠い、近くを運行していないという意見がありました。
- 9) 路線バス等は、段差による乗降困難、待機中の情報・スペースの問題意識が高い
路線バスやレインボーバスの問題点としては、段差があり、バスに乗降しづらい23.4%、バス待機中の情報(音声案内など)がない15.6%、バス待機のための空間・スペースがない13.1%の順に問題意識が高くなっています。
- 10) 自由回答欄の意見
歩道や道路の問題についての意見、路線バス・レインボーバスへの要望、障害者のためのまちづくりへの意見、駅前開発とバリアフリー化、高齢社会へ向けての意見などが多数寄せられていました。

4 2 . 団体ヒアリング調査

(1) 目的

高齢者団体と障害者団体等へのヒアリング調査により、アンケート調査で把握できない詳細な課題等について、ご意見を伺うことを目的とする。

(2) 実施日及び場所

実施日：平成 17 年 10 月 24 日（月）

場 所：富田林市役所 3 階、380 会議室

(3) ヒアリング調査団体名

団体名	出席者
老人クラブ連合会	役員 3 名
社会福祉協議会	事務局職員 2 名
身体障害者福祉協会	役員等 6 名

(4) ヒアリング調査項目

- 1 . 鉄道についての問題・課題
- 2 . バスについての問題・課題
- 3 . 道路についての問題・課題
- 4 . 公共・公益施設、商業施設等の問題・課題
- 5 . ガイドヘルパー、ボランティア活動について（社会福祉協議会のみ）

(5) 調査結果

1) 老人クラブ連合会

鉄道についての問題・課題

（富田林西口駅）

- ・ 駅へ入ってすぐにスロープがあるが、車椅子で自力では難しい。高齢者にとっても勾配がきつい。
- ・ ホームも全体に狭く、特に奥に行くほど狭くなっている。
- ・ 券売機が車椅子の場合は高くて使えないのではないかと。
- ・ 駅員は丁寧である。比較的近鉄は丁寧だと思う。
- ・ 駅から公道に出るところに、深くはないが排水溝の段差がある。車椅子だと 2 c m 程度でも厳しい。

(富田林駅)

- ・ホーム間の地下スロープの勾配がきつい。階段とスロープとの間ではかえってきつく、長く感じる。

(滝谷不動駅)

- ・踏切から線路沿いの狭い通路を車が通る。人通りが多い。

(喜志駅)

- ・駅構内に階段しかなく、バリアフリーになっていない。

バスについての問題・課題

- ・富田林駅南口の金剛バスは駅前が狭いこともあって、バスが錯綜して、歩行者は危険である。
- ・その他、バスそのものについての問題は少ないと思う。
- ・高齢者の人は車の運転ができない人も多い。多くは誰かに同乗させてもらって用事を済ませているが、一人暮らしの人も多く、バスは欠かせない。
- ・レインボーバスの路線が縮小されたが、レインボーバスにしる、路線バスにしる、運行ピッチが 15～20 分間隔でないと、利用はしにくい。

道路についての問題・課題

- ・歩道が施設の入り口で切り下げがあり、波状になっているのが一番危ない。特に旧国道 170 号が一番問題である。
- ・総じてこの地域には、歩道があるところが少ない。
- ・また、車優先からか、総じて歩行者の青信号の時間が短いと思う。特に富田林西口前のスクランブル交差点が長く待つ割に短い。ここは、スクランブルにしない方がいいのではないか。
- ・富田林西口駅前の道路は狭いが、歩行者の通行量は多い。両面交通で直近に踏切もあって、危険だ。
- ・グレーチングに車椅子の車輪がはさまる。鉄板になっているところは雨ではすべる。
- ・高齢者は車が運転できない人も多いので、近場は自転車も利用するが、安全な道がない。また、歩道が狭いので自転車と歩行者の接触事故も多い。
- ・旧国道 170 号の歩道に片側車輪を乗り上げた車が多いことと、自転車の駐車も多いので、通れないところがある。

公共・公益施設、商業施設等の問題・課題

- ・福祉会館の前の道が狭い。
- ・税務署へは 1 年に 1 度は確定申告で行くことがある。歩きの場合は富田林駅からということになるが、途中からの道が狭い。
- ・体育館の陸橋（外環と森屋狭山線の交差）はスロープが長く、勾配も車椅子では難しい。そういうことでほとんど使われていないように思う。高齢

- 者は体育館利用が少ないように思うが、イベント開催時における利用あり。
- ・商業施設では、ダイエーが問題。買い物客用のエレベーターがなく、身障者等は荷物用のエレベーターを利用するが、荷物用なので位置が悪いこと、臭気がきつい。また、トイレが踊り場にあり、身障者等は利用することができない。当然身障者用トイレではない。
 - ・その他では、ジャスコ、万代はバリアフリー対応となっている。

2) 社会福祉協議会

鉄道についての問題・課題

(富田林西口駅)

- ・駅へ入ってすぐにスロープがあるが、勾配がきつく車椅子で自力では難しい。ただ、車椅子利用者は駅員にすぐに押してもらえるので利用はしやすく、隣の川西駅に近い人でも富田林西口駅まで来て、利用していると聞いている。
- ・富田林西口駅の特徴は学生が多く、時間的に集中すること。それに伴う問題点が多くある。
- ・学生登下校時は単線で両方の客が一緒のホームにいるので、ホームの待つ場所が狭い。特に奥に行くほど狭くなっていて危険だ。
- ・券売機が少なく、集中時は相当待たなくてはならない。
- ・学生が多く、周辺道路も一般の人が通りにくい状態になる。特に踏切が近いので、そのあたりが混雑し危険だ。

(富田林駅)

- ・ホーム間の地下スロープの勾配は長くてきつい。
- ・駅内トイレに身障者用がなく、せまくかつ汚い。
- ・身障者用割引切符が南側でしか買えないと聞いている。それで、整っている北口での集合ができないらしい。

(北口駅前広場)

- ・北口は駅前広場が整備されているが、歩行者はロータリーを回って駅に行くのが大変と聞いている。
- ・歩道と周辺空き地との間が傾斜しているところがあり、車椅子は通りにくく、車道を利用せざるを得ないところがある。

(南口駅前広場)

- ・南口は根本的に狭い。金剛バスが5台一緒に出る。発着時刻が集中しすぎているのではないか。駅前広場は大混雑である。旧国道170号に出る信号が短いのと楠公通りとの距離が短いので、渋滞する。

バスについての問題・課題

- ・富田林駅北口のバス停の乗車口の柵が狭く、バスがぴったり止めてくれないと車椅子が通行・乗車できない。また、歩道との間隔が空きすぎている時も同様である。
- ・バスと電車のつながが悪いのではないか。
- ・低床バスが採用されているが、時刻表に明記がないので、いつ来るかがわからず利用しにくい。車椅子はまだ、同乗者がいれば助けられるが、視覚障害者等は難しい。
- ・視覚障害者は、バスによって乗車位置（中央・後ろ）及びステップ（段数）がいろいろあるので、音声で知らせてもらわないと乗車しづらい。
- ・レインボーバスの路線が縮小されたが、レインボーバスの要望は沢山聞いている。坂道のある所などの要望が強い。運行ピッチとかPRとかが必要と思う。

道路についての問題・課題

- ・歩道が施設の入り口で切り下げがあり、波状になっているのが一番危ない。特に旧国道 170 号が一番問題である。（高齢者ヒアリングと同様）高齢者のシニアカー、車椅子利用者は概ね車道を使わざるを得なくなっている。
- ・車椅子利用は当然、高齢者の歩行でも少しの傾斜、段差があぶない。
- ・加えて、マンホールのふたの古いのは引っかかるし、排水溝、グレーチング等の問題は大きい。
- ・点字ブロックは、全体に不足、間違った表示、古くなってはがれたり、色が悪かったり等問題が多くある。福祉会館への進入路でも欠けている部分がある。
- ・信号の音声表示はこれでいいのか。縦、横も同じ音声では？
- ・外環状線を歩行者が渡るのは大変、福祉会館の前でも待ち時間が長いのに青信号時間が短いのではないか。
- ・寺内町から金剛大橋へ行く道に出るところの交差点の信号がわかりづらい。
- ・石川沿いの道路の肩が傾いており、ガードレールもないので危ない。

公共・公益施設、商業施設等の問題・課題

- ・市役所正面の自動ドアは片引きなので、はめ殺しのガラスとぶつかりそうで危ないという話を聞いている。はめ殺しのドアに目印をすればよい。
- ・市役所に入るのに車椅子の方は、地下から入っていく。駐車場を通らなければならないので、危ない。
- ・受付カウンターが立っての対応なので、高齢者や身障者等がしんどいという声を聞く。市民窓口課はまだ座れる場所があるが、高齢者が多い保険年金課には座るところもない。

- ・背もたれのあるのとないのがあり、統一する必要がある。
- ・新しい施設を作る場合は、ユニバーサルデザインの考え方を踏襲し、当初の計画段階から利用者の意見を良く聞いて計画すべき。福祉会館の改修時も障害者用トイレなど後でやり直したところも出てきている。
- ・商業施設では、ダイエーが問題。買い物客用のエレベーターがなく、身障者等は荷物用のエレベーターを利用するが、荷物用なので位置が悪いことと、臭気がきつい。また、トイレが階段踊り場にあり、身障者等は利用することができない。当然身障者用トイレはない。(高齢者団体ヒアリングと同様)
- ・ジャンボでもトイレが階段踊り場にある。

ガイドヘルパー、ボランティア活動について

- ・法改正の影響で事業者のガイドヘルパーが増えている。
- ・ガイドヘルパーにしても、子育てや内部障害者の対応等、専門性が要求されることが増加している。したがって、事前に聞き取りして、どのような内容の介助が必要かを把握することが重要となっている。
- ・伏山台小学校区では小地域ネットワークの関連で校区福祉委員会活動が活発で、福祉マップの作成等興味深い活動をしている。市では自治会単位で福祉委員会があり、ボランティアの地域活動をうまく結合できればいいのではないか。

3) 身体障害者福祉協会

鉄道についての問題・課題

(富田林西口駅)

- ・駅から出たすぐのところに、溝があり、高さ3cmくらいで幅15cm程度だが、それでも車椅子は困難。蓋が必要だ。
- ・前の道路が人・車が多く、両面交通なので危険だ。せめて一方通行にできないか。
- ・川西側の南側踏切の方へ駅の入出口を設置できないか。
- ・身障者トイレはあるが、音声誘導等がないので視覚障害者はわかりにくい。
- ・視覚障害者にとって、どの駅も同様に料金表の液晶が西日の時、弱視者は見えない、ホームの点字ブロックと白線表示の区別がつきにくい、点字ブロックが黄色でないものは判別しづらい、階段の段鼻が見分けにくい等の多くの課題がある。

(富田林駅)

- ・ホーム間の地下スロープの勾配は長くてきつい。
- ・南口と駅内トイレに身障者用がなく、トイレの手すりがじゃまになる。利用者は北口の駅前広場まで行く必要がある。

(北口駅前広場)

- ・北口駅前広場のバス停の乗車口が狭く、バスがぴったり止めてくれないと車椅子が通行・乗車できない。乗車口で直角に曲がり乗車するので、柵・ポールがじゃまになる。

(南口駅前広場)

- ・南口は根本的に狭い。歩道がないし、傾斜があるので危ない。売店前は混雑して通れない。
- ・売店前にスロープがあるが、荷物車が止まっていて使えないときがある。スロープに手すりをつけてほしい。
- ・ミスタードーナツ前に溝があり、通行しづらい。
- ・タクシーの溜まり場横の旧国道 170 号の歩道が狭く、通れない。

バスについての問題・課題

- ・低床バスが採用されているが、時刻表に明記がないので、いつ来るかがわからず利用しにくい。現在は前もって電話してほしいと言われているが、なかなか難しい。運行路線を決めるか、時刻表に表示するか等の工夫がほしい。
- ・低床バスであっても、歩道の高さがないとステップが出てきてうまく接合せず、運転者も苦労している。本来はリフトバスが最適だと思う。
- ・視覚障害者については、バスの乗車位置及びステップがいろいろあるので、音声で知らせてもらわないと乗車しづらい。これは鉄道も同様。
- ・レインボーバスは必要。ルート、バス停の位置、運行ピッチとか丁寧さが必要と思う。府民センター前にバス停をつくってほしい。

道路についての問題・課題

- ・歩道の施設の入り口で切り下げがあり、波状になっているのが一番危ない。特に旧国道 170 号が一番問題である。(高齢者ヒアリングと同様)高齢者のシニアカー、車椅子利用者は概ね車道を使わざるを得なくなっている。
- ・川西駅の旧国道 170 号の信号付近が特に歩道の状況が悪い。初太前の歩道が狭く鉄板がひいてあり危ない。北薩不動産前の歩道が急傾斜している。
- ・川西駅前のグリーンベルトが滑るので危ない。
- ・歩道の少しの傾斜、段差があぶない。排水溝、グレーチング、電柱、不法駐車・駐輪等の問題は大きい。

- ・点字ブロックは、全体に不足、間違っただ表示、古くなってはがれたり、色が悪かったり等問題が多くある。福祉会館前で角がとがったところがある。
- ・信号の音声表示も少ないし、青信号が短い。
- ・ダイエー前の歩道が狭く、かつ車が片足駐車している。旧国道 170 号のマルマサ・百万弗前の歩道への駐車がある。
- ・りそな銀行前の歩道への入り口が狭く、車椅子では入れない。
- ・ジャンボ前の歩道も狭く波うちがひどい。
- ・寺内町へのルートには、点字誘導ブロックがない。ルートのには富田林西口駅からは勾配が急なので、バリアフリーの考え方を取るなら、寺内町ルートは富田林駅からに絞った方がいい。
- ・309 号など中央分離帯のあるところで、横断歩道の中に段差があるところがあり（川西ガード下等）車椅子は困難で迂回している。
- ・旧国道 170 号が右にまがっている信号（富田林五条線との交差点）処理が問題。

公共・公益施設、商業施設等の問題・課題

- ・府民センターの身障者トイレは、中で回れないなど利用勝手が悪い。
- ・レインボーホールの障害者用トイレのドアは重い。中ホール横のトイレはドアで出入しにくい。
- ・中央公民館の身障者トイレもアコーディオンドアで障害者が自分一人ではカギが開閉できず、設備の更新は長い間なされていない。
- ・青少年センターは階段のみで、エレベーターがない。福祉がついている施設なのに。
- ・商業施設では、ダイエーが問題。買い物客用のエレベーターがなく、身障者等は荷物用のエレベーターを利用するが、荷物用なので位置が悪いことと、臭気がきつい。また、トイレが踊り場にあり、身障者等は利用することができない。当然身障者用トイレはない。（高齢者団体ヒアリングと同様）
- ・ジャンボもエレベーターが使えない。
- ・富田林にはバリアフリー施設のモデルとなるべき施設がない。全体的に遅れている。
- ・その中で、新規開店のローソンには身障者用トイレが整備されている。